

志野医師からのひと言：性差医療

性差に注目し、より最適な医療を提供しようとするのを“性差医療”と言います。病気によっては男女に大きくかたよっているものがあります。例えば、痛風やアルコール関連の病気、食道癌などは圧倒的に男性に多く、一方、骨粗鬆症や鉄欠乏性貧血、膠原病などは女性に多いことで有名です。

肥満やメタボについてはどうでしょうか。例えば、メタボは男性の方がより多く、30歳代から増加し始め、40～50歳代でさらに多くなります。一方、女性では50歳代以降で増加します。女性ホルモンの影響といわれています。また、男性の方が、肥満の進行に伴い糖尿病、高血圧、脂質異常症のすべての合併率がより高まるという報告もあります。

ただ、そのような性差や年齢による傾向はあっても、各個人にとっては状況に応じて、食事、運動などの地道な肥満対策が必要ということになるでしょう。

(栄養に関してのお問い合わせは、栄養科または外科外来にご連絡ください。)

